

## 平成 28 年度第 1 回伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン懇談会 結果概要

◆日時 平成 28 年 6 月 7 日（火） 19：30～20：59

◆会場 伊勢市役所本庁舎 3 階 委員会室

### ◆出席委員

齋藤 平委員、伊藤仁司委員、木村成吾委員、西山 敦委員、大西 栄委員、  
西村純一委員、中林広己委員、小見山健司委員、山崎勝也委員、中村 功委員、  
米倉敦也委員、畑 金力委員、東谷泰明委員

### ◆欠席委員

岩崎良文委員、奥出 協委員、前田政吉委員、田村重幸委員

### ◆出席職員

情報戦略局長、企画調整課長、企画調整課課長補佐、企画調整課係員、  
健康課副参事、こども課長、商工労政課長、商工労政課副参事、農林水産課副参事、  
観光振興課長、観光誘客課長、交通政策課長、広報広聴課長、社会教育課長、  
教育研究所長、総務部参事、都市整備部次長、病院経営推進部参事、  
市民交流課副参事

### ◆内容（概要は別紙のとおり）

- 1 伊勢志摩定住自立圏の推進体制等について
- 2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの変更（案）について
- 3 圏域の現状と課題について

## 1 伊勢志摩定住自立圏の推進体制等について

### 【事務局から説明】

伊勢志摩定住自立圏の推進体制、ビジョン懇談会における意見の反映、年間スケジュールについて、[参考資料 1～3](#)により確認。

## 2 伊勢志摩定住自立圏共生ビジョンの変更（案）について

### 【事務局から説明】

主な変更箇所として、「結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」の「地域内外の住民との交流」に、「出会い・結婚に関する情報提供等」【p. 40】の取組事項を追加する。本取組は、結婚を望む人が結婚でき、安心して子育てができる社会づくりを進めるため、出会い・結婚に関する情報提供や相談対応、セミナーの開催などの取組を8市町が連携して行うものである。なお、本取組は定住自立圏形成協定の範囲を超えるものであったことから、共生ビジョンに追加するにあたっては、伊勢志摩定住自立圏推進協議会での協議、各市町議会での議決、変更協定書の締結を経た。

また、新規に取組事項を追加するものではないが、既存の取組事項における新たな事業として、「地産地消の推進、地場製品の PR」【p. 38】における漁獲物の移動販売等、「コミュニティバス運行の連携」【p. 32】におけるコミュニティバスの新接続及び運行区間延長、「伊勢志摩地域への旅客誘致」【p. 28】における国際放送テレビ番組制作等を行う。

その他の変更箇所として、各取組の平成 28 年度予算額が確定したことによる平成 28 年度以降の「事業費」の更新、平成 28 年度以降の「実施スケジュール」の更新及び「現状と課題」等の字句修正を行った。

本日の懇談会の結果を受け、共生ビジョンの変更を策定し、各市町議会、国及び県へ報告を行うこととする。

### 【委員の意見・質問】

- ・「企業立地の推進」【p. 25】について、「平成 28 年度は、人材育成事業以外の事業を休止する」と記載あるが、ガイドブック作成は継続しないのか。  
⇒ガイドブック作成は継続する。「平成 28 年度は、企業立地セミナーを休止する」と改めたい。
- ・「伊勢志摩地域への旅客誘致」【p. 28】について、サミットで伊勢志摩の知名度が上がったことをきっかけに、国際放送番組での PR や外国人誘客に取り組んでいくにあたり、国際観光都市への脱皮などの明確な言葉で表現してはどうか。  
⇒人口減少で国内観光消費が減少していくと言われるなか、インバウンドの必要性を認識して観光誘客に取り組んでいる。表現については検討させていただきたい。
- ・広報紙への近隣市町イベント情報の掲載など、広域の住民がイベント情報を共有できるしくみはあるのか。  
⇒各市町共通の様式を定め、広報紙、ホームページ、ケーブルテレビでイベント情報

の共有を図っている。

- ・インバウンドの必要性は認識している。最近是国内からだけでなく海外からも船が鳥羽港に入ってきており、今後も誘致を進めていきたい。一方、修学旅行客は減少しているが、伊勢志摩に戻ってきてもらえるようセールスに取り組んでいる。
- ・伊勢志摩が忘れられないようにするため、中長期にメディアへの露出を図っていく必要がある。過去のサミットやオリンピックの開催地名は忘れられていたり、開催地名が覚えられていても場所は忘れられていたりすることが多い。
- ・「地産地消の推進、地場製品の PR」【p. 38】における漁獲物の移動販売については、消費拡大だけでなく買物難民支援という意義も大きい。平成 30 年まで、予算と市町の連携を拡大しながら、計画的に取組を進めてほしい。  
⇒これから出発するところであるが、三重外湾漁協のノウハウを学びながら、買物難民支援という視点も持って、少しずつ取組を充実させていきたい。
- ・伊勢志摩国立公園という付加価値に注目し、そこで採れる食材、そこで育った海産物というストーリー性を与え、食材と観光を組み合わせると事業を展開できると面白い。
- ・伊勢志摩国立公園 70 周年の PR にあたっては、伊勢志摩の海や山、自然の美しさばかりを強調しがちである。伊勢志摩の食材についても、最高の場所で採れた最高の食材として強調したい。
- ・共生ビジョンの変更について、これら意見等を反映して策定をお願いしたい。(会長)

### 3 圏域の現状と課題について

#### 【懇談】

- ・伊勢志摩サミットについて、全体として大きな怪我や事故もなく、当日は天気にも恵まれ、無事終えることができた。開催地の地元としては、生活面や交通面を中心にいろいろ不便はあったが、警備の方々と良好な関係を築けたことや、開催直前まで行った住民参加のおもてなしの活動に高い評価をいただけたことは良かった。総理の記者会見では英虞湾が大きく背景に映り、素晴らしい PR となった。
- ・人口減少社会においては、一つひとつの取組が難しい。自治体再編成の検討の必要性も出てくるかもしれない。取組は中心市の発案力に期待したい。
- ・若い世代の出会いの場が少なく、出会いの場の創出が必要である。出会いのイベントは、広域で行うことで出会いの数が増える。
- ・三重外湾漁協は移動販売に 7 年ほど取り組んできた。買物難民が多い南伊勢町では、移動販売は大きな効果を生んでいる。伊勢湾で採れる水産物は愛知県でも採れるので、付加価値は限定的であると思われる。伊勢神宮と結び付け、農産物や水産物を PR していくと良いと考える。
- ・昨年オープンした「さいくう平安の杜」の認知度が徐々に高まってきた。斎宮はお伊勢さんとのつながりが深いので、この関係を大切に、観光の取組を進めていきたいと考えている。
- ・観光客のバス利用について、サミット効果もあって 1 月から 3 月まで微増し、警備の

影響から4月以降は大きく減少した。今後はサミット効果を活かせる施策を打っていかないとつたいない。定住自立圏に関しては住民同士のつながりが大切であるが、高校のOB・OGのネットワークが各市町を結び、住民同士のつながりを生むのではないかと思う。

- ・外国人観光客は確かに増えている実感がある。外国人観光客は医療や保険など、日本滞在中の様々な不安があるので、その不安を解消するインフラの整備が求められる。伊勢志摩のPRについては、外国だけでなく国内も対象に進めていくことが大切である。
- ・「ファミリーサポートセンターの利用促進」について、前年度具体的にどのような取組を行い、どのような効果が上がったのか、検証した結果を知りたい。他の取組についても、同じように報告してほしい。
- ・伊勢市としては、サミットの活用の仕方が甘い。従来の枠を出ず、PRが足りないと感じる。行政と大学の連携により、学生の意見を取り上げ、取組に活かしてはどうか。また、「出会い・結婚に関する情報提供等」はとても良い取組であるが、まだまだ情報が届いていない。成人式のように、ダイレクトメールなどで行政がもっと積極的に踏み込んでいくと良い。
- ・サミットでは広島に注目が集まった影響もあり、宿泊キャンセルが大量に発生した。これに負けず、伊勢志摩が生き残っていくためには、観光産業のレベルアップ、パイの拡大を目指す必要がある。
- ・サミットでは食材を中心に三重県のイメージをPRできたと思う。サミット記念館が設立されるが、展示物が将来にわたって同じであると、集客効果は数年で終わってしまうと考えられる。旅館やホテルが伊勢志摩産の食材にこだわって料理を提供するようにすれば、持続的な集客効果が期待できる。また、今後、伊勢志摩国立公園70周年、全国菓子大博覧会・三重などの大規模イベントを、約2年ごとに開催できると良い。

以上